

在セネガル日本国大使館月報

2018年4月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 16日、カリム・ワッド元国務大臣(ワッド前大統領子息で野党の大統領選有望候補者)はカタールにて有権者登録を行った。
- 19日、国民議会にて大統領選挙立候補要件に関する憲法及び選挙法改正案が119票の賛成票をもって採択された。同改正により、大統領選挙立候補者は、全国14の選挙区のうち7区で最低でも各区の有権者の2000名以上、全国の選挙区合計で有権者人口0.8%以上(65000名)の有権者の立候補支持の署名が求められることになる。

(外政)

- 17日～21日、サル大統領は訪仏し20日にはマクロン仏大統領と会談。同会談で、マクロン大統領は、仏による「教育のためのグローバルパートナーシップ(GPE)」会合での拠出金表明や都市高速鉄道(TER)完工を実行し、サンルイでの防波堤工事に係る入札が開始された旨述べた。

(経済)

- IMFは世界経済見通しを発表し、2018年及び2019年のセネガルのGDP成長を7%と予測した。2018年には、エチオピア(8.5%)、コートジボワール(7.4%)の次に高い経済成長を誇る国と予想した。

カーボヴェルデ

- 25～29日の日程でセネガルを公式訪問中のフォンセカ大統領は、26日にサル大統領と会談し、会談後両国は二重課税、司法共助、保健分野での協力、社会交流に関する協定に署名した。また、同日には国民議会にて演説した。訪問中、シェーク・アンタ・ジョップ大学視察、ゴレ島訪問、ダカール及びティエス在留のカーボヴェルデ人との面会等を行った。

ガンビア

- 16日、12日に開催されたガンビア統一地方選挙の結果が発表され、与党統一民主党(UDP)は50%近い票を集め、120議席中62議席を獲得した。野党のガンビア民主会議(GDC)は23議席、再指針と構築のための愛国同盟(APRC)(注:ジャメ前大統領が所属していた党)は18議席を獲得した。

ギニアビサウ

- 16日、14日に開催されたギニアビサウに関するECOWAS特別首脳会合(於:ロメ)での合意のとおり、ヴァス大統領は大統領令をもって、シルバ首相を解任し、アリストティデス・ゴメス氏を新首相として任命した他、議会選挙実施日を2018年11月18日に決定した。
- 25日、16日に就任したゴメス新首相の内閣が組閣された。

セネガル

(内政)

サル大統領動静

- 4日、独立記念日の記念式典が各州都で行われ、サル大統領をはじめとした政府高官らは、ダカールの独立記念日記念式典に出席した。また、3日、サル大統領は、独立記念日にあわせ、安全保障、青年・女性の起業促進や所得増加計画及び教育の安定等に関する国民向け演説を行った(4日 RTS 他)。

ハリファ・サル・ダカール市長の公判

- 24日、ハリファ・サル・ダカール市長の弁護人は、同弁護人がECOWAS裁判所に提出したダカール裁判所が下した公金横領による同市長への禁固5年の判決は同市長の人権侵害とする告訴に対する判決を6月29日に下すと同裁判所が決定した旨発表した(25日 Sud Quotidien)。

2019年大統領選挙関連

- 16日、カリム・ワッド元国務大臣(ワッド前大統領子息で野党の大統領選有望候補者)はカタールにて有権者登録を行った(17日 WalfQuotidien 他)。
- 19日、国民議会にて大統領選挙立候補要件に関する憲法及び選挙法改正案が119票の賛成票をもって採択された。同改正により、大統領選立候補者は、全国14の選挙区のうち7区で最低でも各区の有権者の2000名以上、全国選挙区合計で有権者人口0.8%以上(65000名)の有権者の立候補支持の署名が求められることになる(20日 Le Soleil 他)。

ストライキ・デモ活動

- 5日、住居手当の引き上げを要求しストライキを行っている初等・中等教育教職員組合は、サル大統領による住居手当を月8.5万FCFAへの引き上げるとの提案につき金額が少額過ぎるとの理由で受入れを拒否した(6日 LeTemoin)。
- 23日、教員待遇の改善等を求めストライキを行っている4つの教員組合は、21日に教育大臣が発表したストライキ停止決定の事実はないとし、ストライキを継続する旨表明した(24日 Seneweb)。

テロ関連

- 10日からテロ容疑等で起訴されているイマーム・ンダオ容疑者ら30名の証人尋問が開始された。共犯容疑者は、ボコ・ハラム関係者から1500万FCFAを受取り、そのうち800万FCFAをンダオ容疑者へ渡した旨証言した。(6日 LeTemoin 他)。

インフラ関連

- 26日、セック航空運輸・航空インフラ開発大臣は、2016年4月に起業したセネガル航空の国内便の運航が4月30日の週より開始する旨発表した。同大臣は、今後は海外便も就航予定であると述べた(27日 Le Soleil)。

社会動静関連

- 11日、セネガル統計局は人口統計を発表し、セネガルの人口が1525万人(推計値)であり、都市部に人口の46.5%、農村部に53.5%が居住しているとした(12日 Le Soleil)。
- 25日、国境なき記者団は、2018年版世界報道自由ランキングを発表し、セネガルはアフリカ諸国の中で7位、世界で54位と評価された(26日 Le Soleil 他)。

(外政)

二国間関連

- 9日、カバ外務・在外セネガル人大臣は、セネガルを実務訪問のため訪れたザリーフ・イラン外務大臣と会談し、公衆衛生、農業及び石油・天然ガス開発等に関する二国間協力について協議した(10日 Le Soleil)。
- 10日、ジュリアス・マアダ・ビオ・シエラレオネ大統領は、3月31日に大統領就任後、初の外国訪問先としてセネガルを訪問し、サル大統領と政治及び経済の協力関係に関し協議を行った(11日 Le Soleil)。
- 19日、カバ外相はパリにてパルリ仏軍事相と会談し、特に軍事・治安分野における二国間協力について協議した。パルリ軍事相は、11月5～6日に開催予定のダカールフォーラム開催に向け引き続き支援していくことを確認した(20日 Le Soleil)。
- 17日～21日、サル大統領は訪仏し20日にはマクロン仏大統領と会談。同会談で、マクロン大統領は、仏による「教育のためのグローバルパートナーシップ(GPE)」会合での拠出金表明や都市高速鉄道(TER)完工を実行し、サンレイでの防波堤工事に係る入札が開始された旨述べた(18日 Le Soleil, 21日 APS)。

国連機関関連

- 5日、バ経済・財政・計画大臣及びイスラム開発銀行は、セネガル電力公社(SENELEC)に725億FCFA及びセネガル油脂販売公社(SONACOS)に267億FCFAの投資を行う旨の合意書に署名した(5日 APS)。
- 世銀グループは、セネガルを含む西アフリカ諸国での沿岸浸食の防止を支援するため「西アフリカ沿岸管理プログラム(WACA)」へ2100万ドルの拠出を承認した。同プログラムでは、砂丘の固定、湿地帯とマングローブの復元、海岸のかさ上げ、防波堤の建設等が実施される(16日 WalfQuotidien 他)。

日本関連

- 10日、ABEイニシアティブの一環として日本へ派遣されたセネガル人54名のうち、7名の帰国報告会がダカールで開催された(11日 Le Soleil)。
- 21日、経営高等学院大学(ISM)の日本語クラブの学生が、青年海外協力隊員らとともに、春の幸せをテーマにした「にほんまつり」を開催した。(23日 Le Soleil)。

(経済)

カザマンス関連

- 20日、首相付緊急農村開発プログラムフォローアップ担当大臣は、緊急農村開発プログラムのフェーズ2(3000億FCFA)が開始され、同フェーズではカザマンス地方が重視され保健ポスト建設、道路舗装、農村給水向上・電力化等を重点とする旨述べた(21・22・23日 Le Soleil)。

資源関連

- 10日、鉱業・地質省の年次報告書が公表され、2017年中のセネガル国内における金及び銀の生産量が7.25トン、金の輸出高が2110億FCFAであった(11日 Le Soleil)。
- 18日、新しい石油法の原案を説明する会議が石油・エネルギー省主催で開催され、新法では鉱区採掘の公開入札、天然ガス・石油の輸出税・未精製石油に対する税の制定、開発収益の40%のセネガル政府への国庫納入等が規定される見込み(19日 Le Soleil)。

経済一般関連

- 国家人口統計庁は、2017年の第4四半期におけるセネガル全土の労働者の平均月収は約9万6千FCFAである旨発表した。都市部の平均月収は、約10万4千FCFA、農村部では約7万5千FCFA。また、労働人口の約30%は月収が3万7千FCFA以下であると発表した(16日 Le Soleil)。
- IMFは世界経済見通しを発表し、2018年及び2019年のセネガルのGDP成長を7%と予測した。2018年には、エチオピア(8.5%)、コートジボワール(7.4%)の次に高い経済成長を誇る国と予想した(18日 Le Soleil)。
- 世銀は、2017年のセネガルの債務はGDP比61%(2016年はGDP比60%)としたが、収益の高い事業のために出資されており、債務リスクは低いと発表した(19日 Le Soleil)。

カーボヴェルデ

- 25～29日の日程でセネガルを公式訪問中のフォンセカ大統領は、26日にサル大統領と会談し、会談後両国は二重課税、司法共助、保健分野での協力、社会交流に関する協定に署名した。また、同日には国民議会にて演説した。訪問中、シェーク・アンタ・ジョップ大学視察、ゴレ島訪問、ダカール及びティエス在留のカーボヴェルデ人との面会等を行った(26・27日 Le Soleil 他)。

ガンビア

- 16日、12日に開催されたガンビア統一地方選挙の結果が発表され、与党統一民主党(UDP)は50%近い票を集め、120議席中62議席を獲得した。野党のガンビア民主会議(GDC)は23議席、再指針と構築のための愛国同盟(APRC)(注:ジャメ前大統領が所属していた党)は18議席を獲得した。

ギニアビサウ

- 16日、14日に開催されたギニアビサウに関するECOWAS特別首脳会合(於:ロメ)での合意のとおり、ヴァス大統領は大統領令をもって、シルバ首相を解任し、アリスティデス・ゴメス氏を新首相として任命した他、議会選挙実施日を2018年11月18日に決定した。
- 24日、ヴァス・ギニアビサウ大統領はセネガルを数時間訪問し、サル大統領と会談し共通の利益を持つ複数の分野における両国間の協力強化のために努力していく決意を改めて確認した(25日 Le Soleil 他)。
- 25日、16日に就任したゴメス新首相の内閣が組閣された。

(注) 本月報は、セネガルの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。 (了)